

○議長（中村 敦君） 次は、質問順位 7 番、1 つ、市民の居場所づくりについて。

以上 1 件について、1 番 柏谷祐也君。

〔1 番 柏谷祐也君登壇〕

○1 番（柏谷祐也君） 1 番、清新会、柏谷祐也でございます。議長の通告に従い、趣旨質問をさせていただきます。

市民の居場所づくりについて。

少子高齢化や人口減少などによって地域のつながりが弱くなってきていると言われ、近隣の人たちとの交流も年々減少してきているなど、コミュニティが希薄になる傾向が見られます。

市民の声の中では「子育てを応援してほしい」「一人暮らしで話し相手が欲しい」などがあり、地域での支え合いへのニーズは高まってきています。市民の悩みが相談機関に直接届けられることは少なく、相談したくても話せない、一緒に活動したくても、ためらう人々の孤独感に対し、温かく包み込んでくれる居場所があつてこそ、悩みや不安を初めて言葉にすることができるのではないのでしょうか。身近な相談相手として「つながってくれる人」と専門組織・機関につなぐ「つなぎ手」の関係性を築くことが大切ではないのでしょうか。

このような課題に対し、まちの将来像でもある「つながる下田」を実現させるためにも、市民との協働の下、多世代が交流できる拠点の整備など、支え合いを行う居場所の提供が必要だと思います。

厳しい財政事情において行政サービスが行き届かない、多様化する市民ニーズに対応した居場所づくりには、市民と行政のパートナーシップによる推進が不可欠です。地域での市民の活動を支えるとともに、市民みんなが参加できる機会を増やし、「御近所さん」という地縁型のコミュニティに限らず、趣味や学習の集まり、子育て仲間など、テーマ型のコミュニティ活動が生まれるきっかけづくりや、育つための支援など、市民・企業・行政が共に力を合わせて持続発展できるまちづくりを進めていかなければならないと思います。

現在、様々な居場所、サロン等の活動に関わるあらゆる領域において、多くのボランティアの方々によって、私たちの市民の暮らしが支えられていると思います。ボランティアの方々の取組を後押しするために、行政に求める支援としての声といたしましては、公的な支援、続いて活動場所の確保がございました。

公的支援については、居場所づくりの活動を行う関係者からは「行政主導で推進すると、活動に制約が生じてしまい、居場所や活動のよさが失われてしまうため、民間と行政がそれ

ぞれの役割を自覚し、相互に補完し協力する必要があります」、また、活動拠点等に関しては「行政による公設常設の居場所、子供も大人も雨でも集える場所、市民の居場所の開設こそが必要ではないか」との声も聞いております。

その中でも図書館の建て替えに合わせ、複合施設として常設の活動場所を確保していただきたいとの声をよく耳にいたしました。下田市立図書館は建設から50年近くたちます。建物は老朽化、耐震性もなく、補強等も行われておりません。当局といたしましても安全性、利便性、耐震性が劣るため、補強ではなく、建て替えを検討しているのではないのでしょうか。

その中で令和4年度下田市立図書館整備計画基礎調査業務委託による、日本大学理工学部山中研究室の未来の下田市立図書館構想を拝見させていただきました。従来の図書館機能、公民館的機能、地域の憩いの場等をかけ合わせる、図書館機能に捕らわれない、まさに地域の情報拠点、多世代の交流の場、新しい図書館の在り方ではないのでしょうか。しかしながら、すばらしい構想ではございますが、当局もお分かりのとおり、計画場所等、実現性が困難かと思いますが、引き続き新図書館整備に向けて、計画を突き詰めていただきたいと考えております。

これからの図書館は赤ちゃんからお年寄りまで、市民の学びたいと思う気持ちに寄り添い、学習意欲に応えると同時に、地域文化、医療福祉、市民の暮らしとコミュニティを支える地域の情報、活動拠点、市民の憩いの場、それぞれの時間を自由に過ごす「広場」としての機能も必要であると考えます。今後も新しいコミュニティが生まれるきっかけづくり、活動を活性化させるための場の確保などが必要だと思えます。

図書館新設にはまだまだ時間がかかるかもしれません。そのため現在、市内には多様な施設がありますが、使いやすい施設とするための工夫や、より多くの市民が触れ合うための機会が求められています。

このような背景を受け、居場所を中心とした市民による活動を、これからさらに活性化させていくために、当局の考える活動の場、環境づくりをどのように整えていくのかについてお聞きします。

これで趣旨質問を終わります。

○議長（中村 敦君） 当局の答弁を求めます。

福祉事務所長。

○福祉事務所長（芹澤直人君） 福祉事務所からは、子育て支援に関係する居場所と、地域で支え合う環境整備についてお答えいたします。

子育て支援関係は、市民ボランティア団体と連携した下田わくわくパーク「これば！」と社会福祉協議会による、ひよこサロンの2つがございます。子育て中のパパやママ、子供同士が自由に遊び、地域の人たちと触れ合える居場所づくりを目指しております。支援する側、される側、双方の居場所となる空間を創出できており、今後も機会を増やしてまいります。

子育て支援の居場所づくりは、多くのボランティアの方々に支えられ、長い期間にわたり事業を続けることができています。居場所づくりには、熱意を持った多くの人の参加が必要不可欠となりますので、社会福祉協議会による個人ボランティアの登録、ボランティア連絡協議会の運営等、市民ボランティアの活動支援を進め、担い手確保に取り組んでいるところでございます。

以上です。

○議長（中村 敦君） 生涯学習課長。

○生涯学習課長（平川博巳君） 私からは、新しい図書館の在り方についてお答えいたします。

議員御指摘のように、令和4年度の図書館整備計画基礎調査業務においては、従来の図書館機能に加え、公民館的機能などを掛け合わせることで新たな役割を持たせ、町中に地域の文化活動の場をつくり出すことがよろしいということで提案をされております。

「まちじゅう図書館事業」につきましても、現在登録されているまちの図書館は4館となりますが、周知不足との御指摘もありますので、積極的に周知に努めてまいります。今年度は生涯学習施設整備基本構想策定業務委託として、複合型図書館の楽しみ方などの社会実験を兼ねて、大横町通りを歩行者天国にし、ブックストリートとした体験型のワークショップとなるイベントを開催いたしました。

今回の道路空間も含めた非日常的な屋外でのイベントとしても好評であったことから、生涯学習課としては、議員からも御提案いただいている市民の居場所となる新しい図書館の在り方の一つとして実感しております。そのため、昨年度の報告を踏まえた今年度の業務委託の成果により、具体的な建て替えプロセスを示せるように、引き続き検討してまいります。

また、市内にある多様な施設を使いやすい施設とするための工夫や、触れ合うための機会については、各施設利用者の皆様などからの御意見を伺うことが重要と考え、今後の参考にさせていただきます。

私からは以上です。

○議長（中村 敦君） 市民保健課長。

○市民保健課長（斎藤伸彦君） 市民保健課からは、高齢者に関する居場所づくりについて回

答させていただきます。

市民保健課におきましては、高齢者の居場所づくりを推進しており、新規の立ち上げ支援と運営支援のほか、各居場所からの希望によって、介護予防や認知症予防の出前講座等を実施して、活動のお手伝いを行っているところです。

令和5年4月当初には、20の団体が市内で活動を継続していますので、活動のレベルアップのため、令和5年度事業として市内の居場所同士の交流会も開催しました。住民が主体となって取り組む通いの場、高齢者の居場所については、高齢者の見守りや健康増進の場としても大変重要なものだとして認識しておりますので、今後も住民の皆様と連携しながら、整備を進めていく考えであります。

以上です。

○議長（中村 敦君） 1番 柏谷祐也君。

○1番（柏谷祐也君） それでは、ちょっと各課ごとで回答させていただきたいんですけども、まず福祉事務所長、御回答ありがとうございます。

各種子育てに関わる支援、地域の居場所づくり、子供たちだけではなく、親子で支える支援、現在、福祉事務所管内の事業として、とても重要視しております。子供たちが自由に遊びながら学べ、地域とのつながり、子育ての中の両親のふだん言えない子育ての悩み相談等、子育ての先輩であるボランティアの方々の声かけにより、とても利用者様からは安心できる居場所となっているそうです。また、思い詰めてこらえ切れず涙を流すほどの相談も実際にあるそうです。

そのような市民相談から、官民が連携し行政への相談、そして専門的支援等が行えるよう、この居場所は、地域で支え合う重要な場所であるとも認識しております。まだまだ施設整備、管理運営には時間がかかるかもしれませんが、今後も、よりよい居場所の機会が増えることを願っております。

次に、担い手ですが、社会福祉協議会を中心としたボランティア人材の促進等のほか、民間でも、活動の中心的な役割を担う人やコーディネート役の人など、様々なキーパーソンが活躍しております。そういった専門的な知識を持つ方々に、地域支援を行うコミュニティワーカーとして専門的なアドバイスや支援を行い、市民が地域に関心を持つことができるよう、学んだ知識や成果を生かして、地域のために活動をする地域福祉の担い手を育むための学習機会の提供と、地域での活動、体験等の機会の検討を今後もよろしくお願いいたします。

次に、市民保健課長、御対応をありがとうございました。

市内通いの場、高齢者サロンには、活動内容によって、助成金で足りている団体もあれば、反対に足りない団体もあるそうですね。こうした地域の支えとなるボランティア活動を行う支援団体の活動に対し、自らの団体が、負担金が出てしまうことは望ましくないのではないのでしょうか。これからの要望といたしましては、団体が会議室等サロン活動するための金銭面の負担がなく、今後も継続的な活動を行えるよう、当局の答弁のとおり今後も助成金等、団体への負担がないよう、支援をよろしくお願いいたします。

また、金銭面以外でも支援されているそうで、通いの場の交流会、この交流会に関しては物すごく人気だったそうで、時間も足りないみたいでしたね。職員の出前講座、理学療法士との協力による介護予防講座など、官民協働による様々な取組を今後もテレビやリーフレット等を通じて、市民の皆様の通い場のとなるよう、啓発活動をお願いいたします。今後の施策を大いに期待しております。

次に、生涯学習課長、御回答ありがとうございました。

図書館についてですが、令和5年10月に総務文教委員会にて、長野県の小布施町にございます小布施町立図書館「まちとしょテラソ」へ、視察へ行いました。

館内は、多目的ホール以外は間仕切りがなく、周りを見渡せる空間となっており、「おすすめコーナー」など企画棚が並び、様々な本に推奨分やQRコードがついており、興味に引かれ、ついつい手に取りたくなるような本が並び、待ち合わせの時間の間に少しでも読める本を用意しているなどの職員の工夫もございました。また、ユニバーサルデザインへの対応、バリアフリー化、オストメイトに対応した多目的トイレもございました。

この施設は、従来の図書館のイメージの沈黙の図書館ではなく、開館時にはBGMが流れ、静かに本を読みたい方と、子供たちが少し騒がしくても気にならないようになっているなどの様々な工夫がございました。

その他、椅子やソファ、学習スペース、キッズスペース、授乳ルーム、カフェコーナー、視聴覚室コーナー、多目的室がございまして、親子で読み聞かせができるスペース、交流の場として利用、学習で使用、定期的なワークショップの開催、社会教育プログラムの実施など、図書館という概念にとらわれないよう、様々な多機能な居場所としての活用ができます。

小布施町の面積は19平方キロメートル、長野県で一番狭い自治体であり、人口1万1,000人前後であるが、町内外、冬季を除き、1日300人程度の利用者がいます。町民に親しませる集いの場、まさに地域の拠点ではないのでしょうか。当局も図書館について、いろいろと視察等見学に伺っていると思いますが、下田市の枠に合った視察先を検討なされたいかがで

しょうか。

次に、複合型の図書館の楽しみ方などの社会実験ですが、私自身、ブックストリートイベントを視察させていただきました。様々な体験型ワークショップがあり、道路には本が並び、親子で座って本を読む姿や、離れた学校の友達と再会でできて喜んでいる子供たちや、地域の方々が交流していたりなど、とてもよい非日常的な空間の場であったと思います。これから新しい居場所の在り方等、民間の方々との協力の下、ぜひとも民間の取組や考えを大切に、当局が後押しする体制を整えていただきたいと思います。

ここから再質問を2つ、させていただきます。

ブックストリートに関しまして、社会実験アンケートを行ったようですが、そのアンケート結果にはどのような市民の意見がございましたでしょうか。

2つ目に、図書館について、昨年度の報告を踏まえた今年度の業務委託の成果により、具体的な建て替えのプロセスを示せるように引き継ぎ、検討してまいりますとの回答でしたが、具体的、何か案がありましたらお聞かせください。

○議長（中村 敦君） 質問者にお尋ねします。

ここで休憩したいと思います。よろしいでしょうか。

○1番（柏谷祐也君） はい。

○議長（中村 敦君） 2時15分まで休憩します。

午後2時06分休憩

午後2時15分再開

○議長（中村 敦君） 休憩を閉じ、会議を再開します。

当局の答弁を求めます。

生涯学習課長。

○生涯学習課長（平川博巳君） それでは、まずブックストリートに伴うアンケートの結果につきましては、2日目の歩行者天国の終了後にですね、昨年度のワークショップに参加していただいたコアメンバーにより、今年度第1回目のワークショップを開催しました。

そこで意見交換をした後に、アンケートの簡易集計結果を、確認を既にしております。97件の案件のほうで、提出がありまして、居場所に関連する質問というところでは、新しい図書館に欲しい場所についての質問というところがありまして、一番多かったのが「お茶が飲めるような場所が欲しいです」が一番多くて、次に「静かに、逆に本が読める場所」、そし

て多かったのが「子供が遊べる場所」、そして「リラックスできる場所」などというふう
結果としてはなっております。

意見交換においてもですね、各種イベントの開催のほかに交流や出会いの場所、待ちわ
せの場所を担うようにしたほうがよいのではというような、今回の居場所の御提案に関連す
るような御意見も多く寄せられております。

一応来年の3月に2回目のワークショップを開催する予定です。昨年度同様、コアメンバ
ー以外の方にも参加をお願いして、今回のアンケート結果と、あと分析結果、また意見交換
での御意見を踏まえて未来の下田図書館とした、今回、生涯学習施設の在り方となる基本構
想策の素案を示して、意見交換を実施する予定でおります。

また、建て替えプロセスにつきましては、令和4年度の図書館整備計画基礎調査業務を各
委員会等に報告をさせていただきましたが、その後ちょっと具体的な進展はないような現状
となっております。

以上です。

○議長（中村 敦君） 1 番 柏谷祐也君。

○1 番（柏谷祐也君） 回答ありがとうございます。

アンケート結果についてですが、やはり市民が求める意見として、くつろげる環境が整っ
ていること、居場所にとらわれない、居場所につながるきっかけづくりなどの、多くの人は、
やっぱり自分らしくいられる場所を求めていることも伝わってきました。集まった人たちの
思いを知ることとは、とても重要であると認識しております。今後も、市民の意見や社
会実験、またワークショップ等を通じて新しい居場所づくり、また、今後の下田市立図書館
の在り方について検討をよろしくお願いいたします。

以上で、市民の居場所づくりについて終わります。

○議長（中村 敦君） これをもって、1 番 柏谷祐也君の一般質問を終わります。